



令和7年10月29日(水)発行(文責:松原秀敏)

美しい山と川のエネルギーが集まる崇化館中学校

令和7年度後期の初日は、76年前の崇化館中のエピソードについて話します。

開校3年目の冬、昭和24年1月16日に、崇化館中学校の校歌が完成しました。崇化館中学校で3年間を過ごした初めての生徒たちが卒業する日に間に合いました。完成したばかりの崇中校歌を歌って、母校を卒立っていく喜びは、どれほど大きかったことでしょう。その方は、今、91歳になられます。以後、崇中校歌は、76年間、歌い継がれてきました。崇中校歌を歌って卒業された方は、その数は、2万1千人を超えます。長い歴史の中で、崇中校歌は、多くの方に愛される歌になっていきました。

先日、崇化館交流館「夢フェスタ」がありました。開会セレモニーで、地域の代表の方があいさつをされました。そのあいさつの中で、「北に、紫におう猿投山、東に、常世にごらぬ矢作川、ここ崇化館地区は山と川に囲まれた歴史ある地区です」と話を始められました。私は、卒業して50年以上経っても、崇中校歌の歌詞が自然と出てくることに驚きを感じました。

令和7年度後期は、来年の開校80年目という節目に向かう、大切な半年間です。ぜひ、崇中校歌を大切にする半年間であってほしいと思います。

それでは、今日の振り返りをします。「紫におう猿投山」、何年たっても覚えているような名場面をみんなで探しに行きましょう。 (令和7年度10月14日 全校集会より)

『紫におう猿投山 常世にごらぬ矢作川』 崇化館中学校は、美しい山と美しい川のエネルギーが満ち溢れる学校です…そんな崇中校歌に込められた願いのごとく、青春のエネルギーが満ち溢れる素晴らしい体育祭でした。そして、数えきれないほど多くの「名場面」が生まれた体育祭でした。

みなさんの4月からの成長、この体育祭を通しての成長は、目を見張るものがあります。みなさんの成長に関わる多くの仲間に感謝し、今から、大きく、温かく、長い長い拍手を送ります。同じ学級、同じ団の仲間へ、裏方となって体育祭を支えた多くのスタッフのみなさんへ、最後まで熱い声援を送ってくださった来賓・保護者の皆様へ、一緒になって盛り上げ、苦しいときも、みなさんのことを信じ、見守ってくれた先生たちへ、そして、ライバルとして競い合い、互いに高め合い、共に成長した、この崇中の仲間全員へ、拍手!!!

最後に、私の振り返りです。崇中校歌をこんなにも大切にしてくれた令和7年度体育祭を、私はずっと覚えていたいです。崇中生のみなさん、本当にありがとうございました。

(令和7年10月24日 体育祭より)